

国際生活機能分類ICFと精神障害

国際障害分類 ICIDH 改正の経緯と臨床モデル

1980 ICIDH (国際障害分類試案)

1981 Ueda model: ICIDH初版の補足モデル

1981 Hachiya model: Ueda modelに準じた精神障害構造試案

1995 Yamane model: 相互性, 環境因子, 個人因子を加えた
サークルモデル

1997 ICIDH-2: Beta-1 Draft for Field Trials

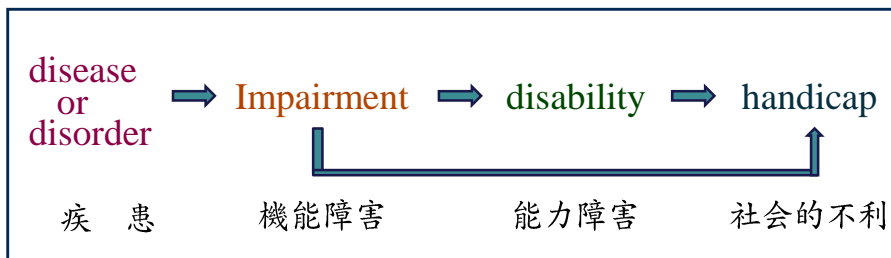
1998 Ueda revised model: 環境因子を加えた修正モデル

2000 Yamane new model: IMMD (An Interactional Model of Mental
Disability)

2001 WHOがICIDH初版をICFに改正

ICIDH ; I nternational C lassification of I mpairments, D isabilities and H andicaps

疾病構造の変化
共通の用語と概念の必要性



ICIDHの効用と問題

効用

- 病気と障害の関連と違いを示した
- 障害を機能障害, 能力障害, 社会的不利に分類
- 障害分野に共通の思考枠組み提示
- リハビリテーション, 保健, 福祉など広く貢献

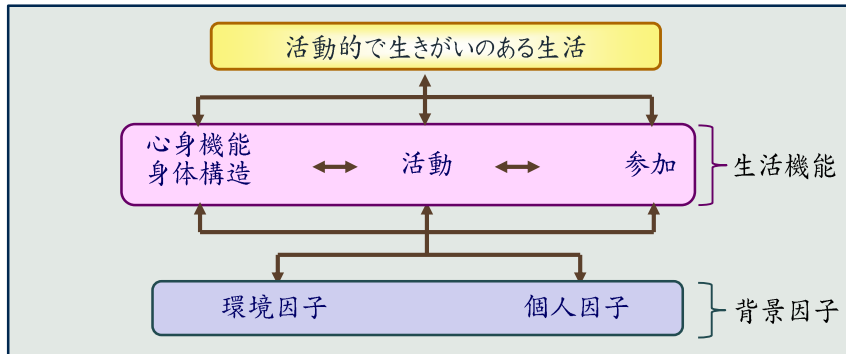
問題

- 障害を疾患の諸帰結とした医学モデル
- 一方向的な経時的因果関係をイメージ
- 健康な面や環境の影響が考慮されていない
- 障害相互の影響が考慮されていない
- 否定的な用語の使用

国際生活機能分類

人の健康状態を生活機能と背景因子の相互性で捉える

International Classification of Functioning, Disability and Health ; WHO 2001



medical model 医学モデル
social model 社会モデル



bio-psycho-social model
生物心理社会的モデル

ICFの基本的概念と枠組み

- 人の健康・生活を包括的に捉えるために、視点を障害から生活機能に移した
- 生活機能は心身機能・構造, 活動, 参加という3次元で表され, それらが相互に影響する
- 生活機能のネガティブな面がICIDHの機能障害, 能力障害, 社会的不利に相当
- 3次元と環境因子や個人因子との相互作用としてひとの健康状態を捉える

ICFの3要素、2因子

状態をとらえる

3要素:生活機能の構成要素

心身機能と構造

身体系の生理的・心理的機能

器官・肢体と構成部分

活動

課題または行為の個人による遂行

参加

日常生活・社会生活への参加の意志と関与が前提

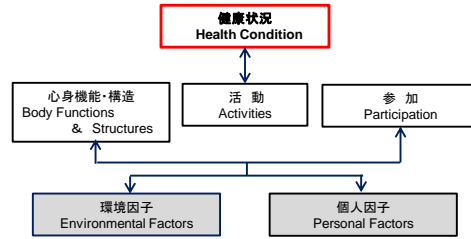
2因子:背景因子の構成要素

環境因子

物的・社会的環境,人々の態度など

個人因子

個人の人生や生活の特別な背景



できる活動
している活動

促進因子と阻害因子
がある

ICIDHとICFの概念比較

	ICIDH(1980)	ICF(2001)	
		肯定的	否定的
次元	機能障害 能力障害 社会的不利	心身機能・構造 活動 参加	機能障害 活動制限 参加制約
背景因子	— —	環境因子(促進・阻害因子) 個人因子	

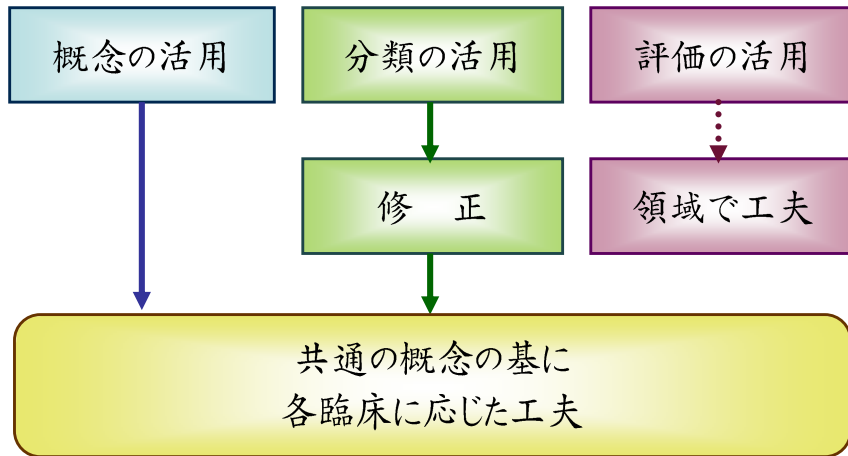
ICFの分類項目第1レベル

心身機能	精神 感覚と痛み 音声と発話 血管・血液・免疫・呼吸器 消化器・代謝・内分泌 尿路・性・生殖神経筋骨格・運動 皮膚
身体構造	神経系 目・耳 音声と発話 血管・免疫・呼吸器 消化器・代謝・内分泌 尿路・生殖 運動 皮膚
活動・参加	学習と知識の応用 一般的な課題と要求 コミュニケーション 運動・移動 セルフケア 家庭生活 対人関係 主要な生活 領域 コミュニティライフ・社会生活・市民生活
環境因子	生產品と用具 自然環境と人工的環境 支援と関係 サービス・制度・政策

ICFの分類項目第2レベル例－精神機能

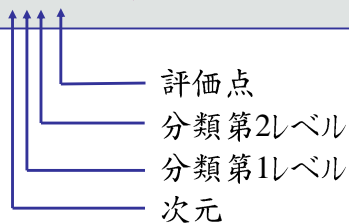
全般的 精神機能	意識機能 見当識機能 知的機能 全般的な心理社会的 機能 気質と人格の機能 活力と欲動の機能 睡眠機能 その他の特定のおよび詳細不明の全般的精神機能
個別的 精神機能	注意機能 記憶機能 精神運動機能 情動機能 知覚機 能 思考機能 高次認知機能 言語に関する精神機能 計算法能 複雑な運動を順序立てて行う精神機能 自己と 時間の経験の機能 その他の特定のおよび詳細不明の個別 的精神機能その他の特定の精神機能 詳細不明の精神機 能

ICFの活用



ICFの評価点

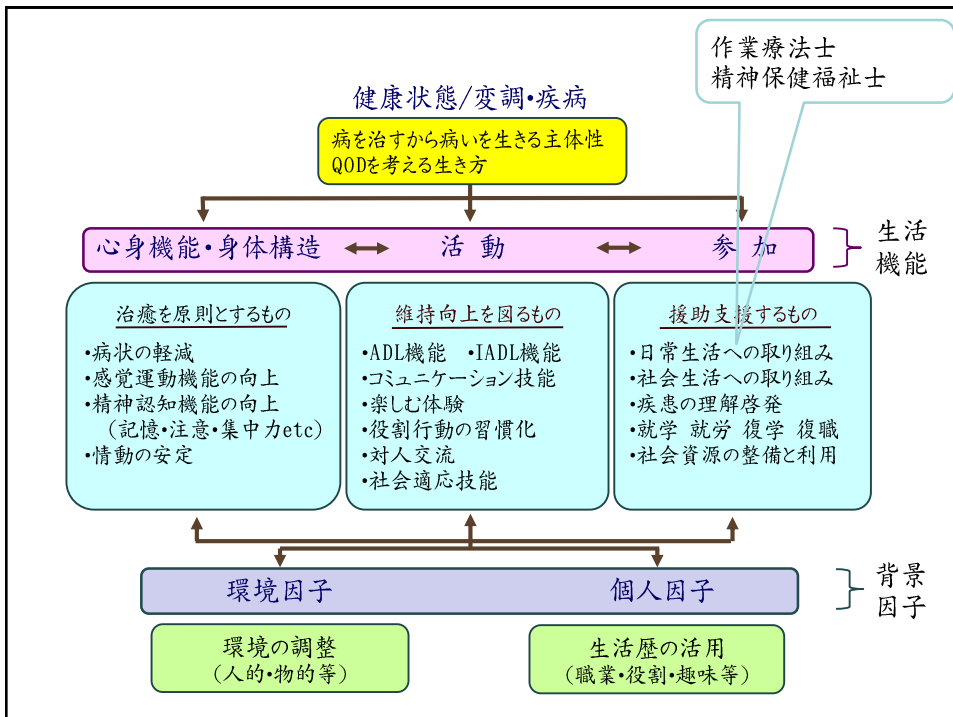
- xxx.0 問題なし(なし, 存在しない, 無視できる)
- xxx.1 軽度の問題(わずかな, 低い)
- xxx.2 中等度の問題(中程度の, かなりの)
- xxx.3 重度の問題(高度の, 極度の)
- xxx.4 完全な問題(全くの)
- xxx.8 詳細不明
- xxx.9 非該当



ICFの特長と効用

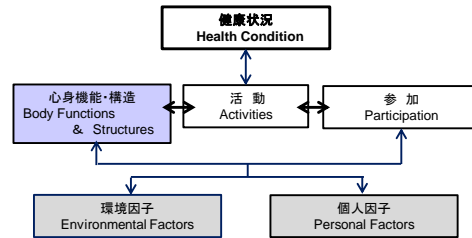
- 障害を個人と環境の相互の関係としてみる視点
- できないというマイナス面だけでなくプラスの面の重視
- 心身機能回復, 活動や参加機能向上, 環境調整のバランスによる包括的対処

- 障害や疾病がある人や家族, 保健・医療・福祉等の従事者が, 障害や疾病について共通理解を持つことができる
- 様々な障害者に向けたサービスの計画や評価, 記録などの実際的な手段を提供できる
- 障害者に関する様々な調査や統計について比較検討する標準的な枠組みを提供できる



心身機能の治療

薬物療法や心理社会的療法による病状の軽減
治るものは治す
治らないものは悪化防止



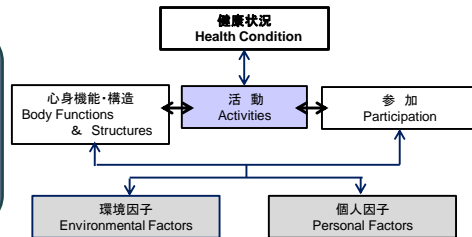
思考の障害(妄想)
知覚の障害(幻覚)
自我意識の障害
意志・欲望の障害
感情の障害
認知機能障害
(社会機能障害の主要原因)

作業療法の役割

病的症状からの早期離脱
(服薬最少量による症状安定)
二次的障害(遷延)の防止

活動の支援

心理社会的療法による活動支援
何ができないかより
どうすればできるか
できないことをできないままにしない



生活維持活動 [ADLの障害
IADLの障害]

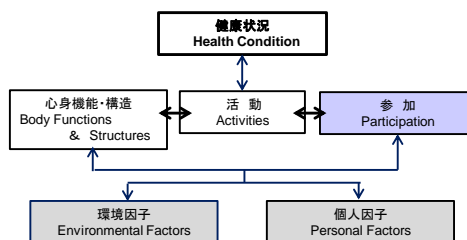
コミュニケーション障害
対人関係技能障害
作業遂行技能障害
社会資源の利用制限
その他の活動の制限

作業療法の役割

生活行為の再体験
生活技能習得
作業を介した認知行動修正

参加の支援

日常生活・社会生活への関与に対する支援



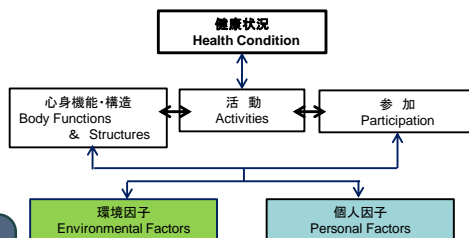
家庭生活
コミュニティライフ
市民生活
社会生活
就労・復職
修学・復学
その他社会活動

作業療法の役割

セルフコントロールの支援
習得技能の生活への汎化
リハビリ支援

背景因子への関与

環境の調整
環境活用支援



生活歴の活用
どう生きてきて
何を失ったか

交通機関
公共機関サービス
居住環境、生活環境
人的環境
社会文化的環境
など

性別、人種、年齢、言語
現病歴、治療歴
生育歴、教育歴、職歴
経験、ライフスタイル、習慣
役割、趣味、特技
など

評価の視点とICF

